



「時代が変わっても、教育の本質に変わりはありません。つまり、教育に「王道」はない、ということはお確かです。しかし、講義を受ける学生たちの変化には目を向けなければなりません。今の学生にとって魅力的な講義とは何か、を大学の教員も考えていかねばならないと思っています。」



社会で活躍する 女性リーダーを 育てたい

伝統は守りつつ

時代の変化に対応する柔軟性も

—学長就任おめでとうございます。

平成20年10月1日に学長に就任され

ましたが、今のお気持ちとは？

私の友人にも大学の管理職に就いている人

が何人かおられますが、経済学的にいうとマー

ケットが4割も減ってきているこの少子化時

尚綱大学 学長 **大羽 宏一**



プロフィール

1943(昭和18)年3月18日生。兵庫県出身、一橋大学商学部卒。日本火災(現:日本興亜損害保険)入社、商品開発業務などに携わる。98年大分大学経済学部教授(現在は大分大学名誉教授)。06年4月から尚綱大学短期大学部総合生活学科教授、兼尚綱学園図書館長。専門は、リスクマネジメント論、保険論。短期大学部での授業は、「消費生活論」「生活経営論」「ファイナンシャル・プランナー論」など。

2001年から2003年まで、内閣府国民生活審議会消費者政策部会委員を務めるなど消費政策関係について社会的貢献を果たしている。

女子教育の現場から もつと社会に情報発信を

—今や数少ない女子教育の場として、
尚綱大学をどう捉えておられますか？

まだ日本では、女性が社会に出て生き生きと活躍できる社会的な基盤整備ができていないのが現状です。先進国の中で、閣僚のメンバー18人中、女性が2人しかいない国なんて少ないと思います。フランスのサルコジ内閣でも半分は女性ですし、アイルランドは女性首相でしょう。そういう観点からしますと、日本は異様な男性社会だと思えます。99年になつて、やつと男女共同参画社会基本法が成立しましたが、いまだに高度成長期の幻影を引きずっていますね。この日本の社会を先進国並みに改めるには、われわれ女子教育の現場から、もつと情報発信していかなければならないでしょうね。

—今の学生に望むことは？

女子大という大きな特色を生かして、大学の中でのびのびと個性を伸ばし、卒業後は社会のリーダーとして活躍するような方になつていただきたいと思っています。また、若者全般に言えることですが、コミュニケーション能力が不足していると思います。口頭での会話

礎 いしずえ | vol.11 Contents

◎巻頭特集 巻頭

社会で活躍する 女性リーダーを育てたい

尚綱大学 学長 大羽 宏一

尚綱高等学校 創立120周年記念行事	2
尚綱の風～尚綱のOG訪問～	4
クラブ・同好会紹介	6
就職活動サポートエリア	8
新任教職員紹介	9
平成21年度 選考日程のお知らせ	10
キャンパスイベントレポート	12

代に、学長になりたいという人は少ないんじゃないでしょうか(笑)。教育を産業界と比較するのは、あまり適切ではないかもしれませんが、きびしいのは事実だと思います。学長に就任したわけですから、このような環境に対してきちんと対処していかなければならないという覚悟は決めています。

—大学の現状と課題についてお聞きしたいのですが。

今、大学は変革の時代だといわれていますが、伝統は守りつつ新しい社会的な教育ニーズにも応えていく柔軟性は持つべきでしょう。本大学は、長い伝統に培われた高等教育機関ですが、その伝統におもねることなく、時代にあった大学であるべきだと思います。いく

能力のみならず、レポートを書くなどの文章力も含めて、在学中にしっかりと力をつけていただきたいと考えています。卒業した後に、「尚綱卒の女性は立派だ。正確な情報が得られる。」といわれるようになっていただきたいですね。

アカデミズムの基本を忘れず、 特色のある大学に

—これからの抱負を伺えますか？

大学とは、アカデミックな高等教育を授ける場です。このスタンスは揺るぎません。一部の大学で実学教育へ流れ過ぎているという問題も指摘されていますが、本来の大学としての機能を取り戻すべきでしょう。われわれには、「女性の高等教育とはこういうものだ」という確固としたものを創り上げていく社会的責任があると思います。昔前は、どの大学も総合的の大学を指向していました。しかし、今はそういう時代ではないと思います。松尾芭蕉が言ったといわれる言葉に「不易流行」というのがありますが、環境に適応すべく変化すべきところと、変えてはいけないところを考慮しつつ、個性のある、また特色ある大学として発展していくことが大事だと考えています。